

研究報告

「看護管理学」を受講した看護大学生の臨地実習での体験

Experiences of nursing students who attended a "nursing management" class during clinical practice

新実絹代¹⁾

Kinuyo Niimi

キーワード：看護管理学教育、看護基礎教育、臨地実習

Key words : Nursing Management Education, Basic Nursing Education, Clinical Practice

要旨

本研究の目的は、「看護管理学」授業を受講した看護大学生が臨地実習で体験したことを明らかにし、看護実践に役立つ「看護管理学」授業改善の方向性を見出すことである。A大学看護学科の3年次生7名を研究参加者に半構成的面接を行い、質的記述的に分析した。その結果、臨地実習で体験できた教育内容は、【チームマネジメントの本質】、【リーダーシップの機能と役割】、【メンバーシップの発揮】、【看護ケアのマネジメント】、【チームマネジメントの本質】であった。【看護サービスマネジメント】や【クオリティマネジメント】に関する語りは少なかった。体験できた教育内容は、授業時の教育内容に対する学生の関心度の高さと一致し、座学時に興味・関心が高かった体験内容は、臨地実習でも意識的に実践できていたと考える。また、体験中心の学習方法が学生の気づきから行動につながり効果的であると考察する。

I. はじめに

2025年に向け地域包括ケアシステム等の新しいヘルスケアシステム構築への看護職の参画が促進されている(日本看護協会、2015)。このような状況の中で、多職種との協働やチーム医療を推進するキーパーソンとして看護職のマネジメント力が重視されている(厚生労働省、2008)。保健医療福祉分野の動向に伴い、看護基礎教育では、2009年の指定規則改正による第四次カリキュラムにおいて「看護の統合と実践」科目6単位が設置され、教育内容として「チーム医療及び多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの理解」「看護をマネジメントできる基礎的能力を養う」などが明記された。

カリキュラム改正から10年が経過し、「看護管理学」が看護基礎教育に定着しつつあるが、「看護管理学」の教育内容や時間数は標準化されておらず到達基準は明確でない現状がある(新実、2015)。4年制看護大学における「看護管理学」教育の実態調査(新実、2015)では、「看護管理学」の科目設定大学は、84.5%であり、残りの大学も基礎看護学などで看護管理に係る内容を教授しており、回答大学の全てにおいて「看護管理学」に関する教育が実施されていた。「看護管理学」を設定している場合は、4年次(68.8%)に1単位(70.8%)としている大学が多かった。しかし、「看護管理学」を設置している大学での教育内容は、教育機関によりばらつきが認められた。

1) 神奈川工科大学 Kanagawa Institute of Technology

看護管理学の担当教員は非常勤講師が20%であり、他の専門領域（基礎看護学、成人看護学、母性看護学など）と異なり、担当する専門領域がない中で、独立科目として教育していかなければならない現状がある。

看護大学における「看護管理学」教育の現状から、看護基礎教育で行うべき教育内容などについて標準化することが必要であると考えた。

「看護管理学」の基本的要素として必要と考えられる28の教育項目についても、看護基礎教育の「看護管理学」教育の実態調査、看護学生の看護管理学科目の理解の実態、新人看護職員研修の実態調査が実施されている（新実、2015；新実、2017；新実、2018）。その結果、看護基礎教育において看護師に必要とされる「看護管理学」に関する必須の知識のすべてを習得することは難しい現状や新人看護職員研修と内容が重複していることなどが明らかになった。

調査結果から看護基礎教育と新人看護職員研修における「看護管理」教育の一体化をベースに、看護基礎教育における「看護管理学」科目の標準的カリキュラムの提案を行った（新実・草間、2017）。標準的カリキュラム案の前提として単位数は1単位15時間、履修時期は3年次前期とした。また、1年次に「セルフマネジメント」6時間、4年次に「組織サービスマネジメント」10時間を配置している。本研究では、3年次前期の看護管理学について、標準的カリキュラム案に準拠して授業を実施した。

本研究により、看護実践に役立つ看護管理学の授業改善の方向性を見出したいと考える。「看護管理学」は、「看護の統合と実践」科目として位置づけられ、全看護学領域の看護実践に必要な教育内容であり、各看護学領域の既習の学習を統合させるものである。更に、新人看護師としてのスタートが円滑にできるように臨地実習とも連動し実践力を強化するものである。

Ⅱ. 研究目的

「看護管理学」を受講した看護大学生が臨地実

習で体験したことを明らかにすること。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究デザイン

本研究は、半構造化面接法を用いた質的記述研究である。

2. 研究参加者

A大学看護学科の3年次生7名とする。

「看護管理学」の授業を受講し領域別実習を終了した学生とする。領域別実習終了時期を選択した理由は、領域別実習に慣れ、マネジメントを意識した看護実践が出来る成熟度を考慮したことにある。

3. 看護管理学の授業内容

表1は、授業計画である。「ケアマネジメント」「看護サービスマネジメント」の知識・技術・態度を習得し、適切な看護実践を行うための効果的なマネジメントが実践できる基本的能力の育成を教育目的としている。教育項目は、「看護実践とマネジメント」「看護ケアマネジメント」「看護サービスマネジメント」「リーダーシップ論」「セーフティマネジメント」を配置している。

4. データ収集期間

2018年3月であった。

5. データ収集方法

面接はインタビューガイドに基づき実施した。面接は研究参加者と研究者の1対1で行い、研究参加者1名に対し1回実施した。1回の面接の所要時間は30分～40分程度である。面接内容は、領域別実習場面で看護管理学授業で活用できた内容と方法を中心に語ってもらった。インタビュー内容は、研究参加者の同意を得てICレコーダーに録音し、録音された内容から逐語録を作成した。

インタビューガイド

1. 受け持ち患者さんの看護を実施するなかで「看護管理学」科目の学習で役立った内容、場面についてお答

表1 「看護管理学」授業計画

【到達目標】

1. 看護におけるマネジメントの概要と必要性が説明できる。
2. 効果的な看護実践に必要な看護ケアのマネジメントとその要素が説明できる。
3. 組織運営の基本的に基づいた看護サービスマネジメントとその要素が説明できる。
4. チーム医療における看護職の役割とチームマネジメントのあり方が説明できる。
5. 看護活動におけるリーダーシップ、メンバーシップが説明できる。
6. マネジメントを自己管理に活かす方法を述べることができる。
7. 安全で良質な看護サービスを提供するために必要なセーフティマネジメントの概要が説明できる。

回	主題	内容	方法・課題
1	看護実践と マネジメント	・看護管理学とは ・看護管理の目的、機能 ・看護実践と看護管理・看護管理の歴史と変遷	DVD鑑賞（歴史） 文献検討（ナイチンゲール）
2	看護ケア マネジメント	・マネジメントプロセスとサイクル ・看護ケアのマネジメント ・看護業務のマネジメント	マネジメントプロセス演習
3・4	看護サービス マネジメント (1)(2)	・看護サービスの特性 ・組織の理解 ・看護サービスマネジメント ・マネジメントプロセス展開	優良ホスピタリティの検討 DVD鑑賞（優良企業のサービス）演習
5・6	チーム マネジメント (1)	・チーム医療の概念 ・看護職の役割 ・チーム医療を推進する必要要件 ・対象者を中心とした連携・協働 ・在宅ケアチームマネジメント・目標管理	事例検討 (チーム医療と看護師の役割)
7	リーダーシップ論	・リーダーシップ ・メンバーシップ ・セルフマネジメント	体験学習
8	セーフティマネジ メント	・セーフティマネジメントとは ・医療安全、感染管理の概念 ・災害防災管理の概念 ・物品、薬品管理	

えくください。

2. 看護チームの一員として看護実践をしていると感じたことはありましたか。それはどういう場面でしたか。

- 3-1) 受け持ち患者さんの看護を通してチーム医療が重要だと考えたことはありましたか。どういう場面でしたか。

- 2) チーム医療における看護職の役割について考えましたか。

- 4-1) 臨地実習グループのなかで、リーダーシップ・メンバーシップを意識して行動できましたか。

- 2) リーダーシップについて「看護管理学」の学習が活

かせた内容がありましたか。

- 3) メンバーシップについて「看護管理学」の学習が活かした内容がありましたか。

5. 臨地実習を終え、他に「看護管理学」で学習した内容で活用できたことはありましたか。

6. データの分析方法

作成した逐語録を精読し、意味内容から「看護管理学」の教育内容として「学生の臨地実習場面での活用」に相当する文章を抜き出し要約しコード化した。コードの相違点、共通点について比較し、

類似した複数のコードを集めてサブカテゴリーとし、さらにより抽象度の高いカテゴリーを形成した。その後、コード、サブカテゴリー、カテゴリー間の一貫性を確認した。分析結果について看護学の研究者1名よりスーパーバイズを受けた。

7. 倫理的配慮

研究参加者には、研究の目的や方法、研究参加者の匿名性の保持、成績には影響しないこと、情報の管理や取扱い、研究参加の任意性の保証、研究成果の公表等について説明し同意を得た。本研究は国際医療福祉大学倫理審査で承認（承認番号 17-1g-101）を得て実施した。

IV. 結果

1. 研究参加者の背景

同意が得られた研究参加者は7名の女性であった。すべて、看護学部3年生に在籍し、基礎看護学実習と領域別実習を経験していた。面接時間は、21分から28分であった。インタビューの予定時間は30分～40分であったが、短くなった理由は、協力学生が回答を準備し円滑に回答を得られた場合が殆どで、21分の学生は、看護管理学への関心が薄い学生で、回答内容が少ない状況であった。

2. 臨地実習で活用できた看護管理学の教育内容

臨地実習で活用できた教育内容は、【リーダーシップの機能と役割】、【メンバーシップの発揮】、【看護ケアのマネジメント】、【チームマネジメントの本質】の4つのカテゴリーが形成された（表2）。以下、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを<>研究参加者の語りを「斜体字」で記載する。

1) 【リーダーシップの機能と役割】

臨地実習は、5名から7名のグループで実習するため、実習グループ運営に活用できた内容が多く語られており、<実習目標の立案・共有の重要性>、<実習目標の評価>、<リーダーに必要な能力を意識した行動>、<カンファレンス運営におけるリーダーシップの発揮>の4つのサブカテゴリーで構成された。

<実習目標の立案・共有の重要性>では、「リーダーのときには、今日の目標や実習の流れを意識して行うことをメンバーに伝え共有する重要性が学べた」、「実習前に、この実習での学びをメンバーと話し合った」などが語られていた。

<実習目標の評価>では、「実習終了後に、今日の実習はどうだったかを話しあい評価を行った」、「1回実施したケアの手順で良かったことを情報共有していた」などを語っていた。

<リーダーに必要な能力を意識した行動>では、「リーダーに求められる能力を意識したが特に高潔さを意識し悪い方向にいかないように行動した」、「リーダーとして、メンバー一人ひとりの得意なことが出せるように考えた」と語りがあった。

<カンファレンス運営におけるリーダーシップの発揮>では、「カンファレンス時に、発言しないメンバーに意見を求めみんなが意見を言えるようにした」、「カンファレンスの運営には、リーダーシップを意識した」などの語りがあった。

2) 【メンバーシップの発揮】

リーダーシップと同じように、臨地実習における学生グループの運営に関して示されており、<実習前にメンバーの役割の決定>、<実習中の責任の遂行>、<リーダーを支える>、<リーダーへの提案>の4つのサブカテゴリーで構成された。

<実習前にメンバーの役割の決定>では、「実習前に、物品係や健康管理などの役割を決めたことで実習できたと思う」、「最初は大雑把な分担であったが効率を考え分担を細かくした」などの語りがあった。

<実習中の責任の遂行>では、「メンバーとして与えられた役割はしっかり果たすようにした」、「メンバーの一人として行うことはきちんとやる」などの語りであった。

<リーダーを支える>では、「リーダーにあまり負担をかけ過ぎないようにした」、「メンバーで疑問を解決できるようにした」などの語りであった。

<リーダーへの提案>では、「リーダーが違っていると思ったことは伝えた」、「リーダーシップ性が少ないリーダーの場合は率先的に提案を行っ

表2 「看護管理学」を受講した学生が語った臨地実習での体験

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
リーダーシップの機能と役割	実習目標の立案・共有の重要性	- 今日の目標や実習の流れを意識して行うことをメンバーに伝え共有する重要性が学べた - 実習前に、この実習での学びをメンバーと話し合った - みんなで目標達成に向けての共通の意識がもてた
	実習目標の評価	- 今日の実習はどうだったかを話し合い評価を行った - 今日の実習の達成度を学内に帰って話し合った 1回実施したケアの手順で良かったことを情報共有していた
	リーダーに必要な能力を意識した行動	- リーダーに求められる能力を意識したが、特に高潔さを意識し悪い方向にいかないよう行動した - メンバーの一人一人が得意なことが出せるように考えた - 実習で注意されても落ち込まず今後に向けて考えていくようにした
	カンファレンス運営におけるリーダーシップの発揮	- 発言しないメンバーに意見を求めみんなが意見を言えるようにした - カンファレンスの運営にはリーダーシップを意識した - メンバー一人づつが発言できるように環境づくりをした
メンバーシップの発揮	実習前にメンバーの役割の決定	- 実習前に、物品係などそれぞれの役割を決めた - 最初は大雑把な分担であったが効率を考え分担を細かくした - メンバーがどういう役割をすべきかを、得意なところが出せるよう考えた
	実習中の責任の遂行	- 与えられた役割はしっかり果たすようにした - 結構自分達で考えみんな動いていた - メンバーの一人として、行うことはきちんとやるようにした
	リーダーを支える	- リーダーにあまり負担をかけ過ぎないようにしていた - カンファレンスでもみんなが発言するようにした - メンバーで疑問を解決できるようにした
	リーダーへの提案	- 何かあったらみんなで相談するようにしていた - リーダーが、違ってたと思ったことは伝えた - リーダーシップ性が少ないリーダーの場合には率先的に提案を行った
看護ケアのマネジメント	ホスピタリティを配慮した看護ケア	- 患者の望みを考え気持ち良く過ごしてもらえなくも考えた - ケアの中でもより安楽に過ごせるように配慮することがホスピタリティと考えた - 丁寧に関わりケアすることは患者の信頼につながることを学んだ - ホスピタリティが高いケアを看取りの看護の時に学んだ
	マネジメントプロセスとサイクルを活用した看護ケア	- 看護師がPDCAサイクルを実施していることが学べた - 看護過程の展開で意識して行った - 一つ一つのケアでも必要であることが学べた
	看護資源の活用	- 自宅退院でADL維持のために患者個人の資源の活用を考えた - 患者の個性を支援するには資源の活用が必要と学んだ - リハビリパンツを下ろしやすくテープで止めるタイプを導入し工夫できた
	看護ケア研究の活用	- 看護ケアの質を上げるのは科学的根拠が大事で研究の活用が大事だと学んだ - 最新情報で看護をしている場面から研究結果の活用を学んだ
チームマネジメントの本質	各職種の専門性の発揮	- チーム医療は、病棟の特色によってチーム編成が成されると学んだ - 看護師の分野以外に栄養士は栄養指導、リハビリは理学療法士が入り質の高い看護ができる - ひざの手術をした患者に手術の際は麻酔科医、業者が一丸になって手術を成功させている場面を見た - 重症心身障害児の受け持ち時に看護師同様、保育士が活躍している場面を見た - 重症心身障害児病棟で学校の先生のレクレーションで患児に笑顔がみられ対応の有効性を学んだ - 重症心身障害児病棟で嚥下の問題がある患児に専門家がかかわっていた - 抗がん剤の副作用状況の確認を薬剤師さんが行っている場面を見た
	対象を中心とした職種間の連携・協働	- 理学療法士のアドバイスを看護計画に組み込むことができた - 精神科実習の退院支援カンファレンスでケアマネージャー、弁護士が地域で患者を支えていることを学んだ - 看護師がアセスメントをし緊急性が高いと判断し医師に報告することを学んだ - 終末期患者のインフォームド・コンセントの記録のチームでの共有の必要性を学んだ - 担当看護師の看護記録を医師や他の看護師が活用している場面を見た - 手術の際、機械出しの看護師は手術の流れをみて適切に医師に機械をだしていた
	チーム医療における看護師の役割	- 患者にとって看護師は身近な存在であり変化に気づき生活しやすいように調整していく役割がある - 看護師は患者の異常に一番早く気づくことを学んだ - 看護師は患者の生活状況を把握し医療スタッフと共有してその人らしく生きることを支援している - 看護師は他の医療者でできない精神的なケアができることを学んだ - 看護師は治療方針等補足説明が必要な場合に介入し患者の気持ちを代弁する役割があることを学んだ
	看護チームにおける個々の看護師の役割	- 看護師長の行動から看護管理者の役割を学んだ - 手術室で外回りの看護師が病棟の看護師と情報の共有を行う場面を見た - 看護チームで担当看護師と責任看護師の連携の場面を見た - リーダー看護師が日勤の状況を夜勤者に伝える場面から24時間継続する看護を学んだ
	看護チームの一員としての学生の役割	- 学生は患者のリハビリに付き添えるので様子を報告し看護チームでの学生の役割を学んだ - 精神看護学実習でうつ病の患者の「死にたい」の訴えに看護師同様の対応について学んだ - 学生の看護援助がチーム全体の援助に反映していることを実感した - おむつ交換が適切性を提案しおむつ交換の回数や方法が変わり情報提供の重要性を学んだ - 学生は患者の傍にいる時間が長いので患者の気持ちを聞き看護師に伝えることができた - 同室者が転倒した時その場面を医師や師長に伝えたことが適切な治療につながることを学んだ - 活動低下のある患者を受け持ちコンビニに行くことや洗髪を提案し実施することができた - 病棟内カンファレンスで学生が援助したことを情報提供し看護の方向性を話し合うことができた

た」などの語りであった。

3) 【看護ケアのマネジメント】

看護ケアを提供する上での対象者と看護師関係で重要な要素、看護実践の具体的な展開、看護ケアの質の向上に関することが示されており、＜ホスピタリティを配慮した看護ケア＞、＜マネジメントプロセスとサイクルを活用した看護ケア＞、＜看護資源の活用＞、＜看護ケア研究の活用＞の4つのサブカテゴリーで構成された。

＜ホスピタリティを配慮した看護ケア＞では、「患者の望みを考え気持ちよく過ごしてもらえるか良く考えた」、「丁寧にかかわりケアすることは患者の信頼につながることを学んだ」などの語りであった。

＜マネジメントプロセスとサイクルを活用した看護ケア＞では、「看護師がPDCAサイクルを実施していることが学べた」、「自分自身は、PDCAサイクルを看護過程やケアの実施時に役立てた」などの語りであった。

＜看護資源の活用＞では、「自宅退院でADL維持のために患者個人の資源の活用を考えた」、「患者の個別性を支援するには資源の活用が必要と学んだ」などの語りがあった。

＜看護ケア研究の活用＞では、「看護ケアの質をあげるの科学的根拠が大事で研究の活用が大事だと学んだ」、「最新情報で看護をしている場面から研究結果の活用を学んだ」の語りがあった。

4) 【チームマネジメントの本質】

最もコード数が多く、医療施設におけるチーム医療の多職種間の協働、連携の重要性や看護師の役割、看護チーム運営における各看護師、看護学生の役割について示されており、＜各職種の専門性の発揮＞、＜対象を中心とした職種間の連携・協働＞、＜チーム医療における看護師の役割＞、＜看護チームにおける個々の看護師の役割＞、＜看護チームの一員としての学生の役割＞の5サブカテゴリーで構成された。

＜各職種の専門性の発揮＞では、「看護師の分野以外に栄養士は栄養指導、リハビリは理学療法士が入り質の高い看護ができる」、「チーム医療は病

棟の特色によってチーム編成がされると学んだ」などの語りであった。

＜対象を中心とした職種間の連携・協働＞では、「理学療法士のアドバイスを看護計画に組みこむことができた」、「精神科実習の退院支援カンファレンスで、ケアマネージャ、弁護士が地域で患者を支えていることを学んだ」などの語りであった。

＜チーム医療における看護師の役割＞では、「患者にとって看護師は身近にいる存在だと感じ些細な変化に気づき生活しやすいように調整していく役割がある」、「看護師は患者の生活状況を把握し医療スタッフと共有してその人らしく生きることを支援している」などの語りであった。

＜看護チームにおける個々の看護師の役割＞では、「看護チームで担当看護師と責任看護師の連携の場面をみた」、「リーダー看護師が日勤の状況を夜勤者に伝える場面から24時間継続する看護を学んだ」などの語りであった。

＜看護チームの一員としての学生の役割＞では、「学生は患者さんのリハビリに付き添えるので様子を看護師に報告したことで看護チームでの学生の役割を学んだ」、「同室者が転倒した時にその場面を医師や師長に伝えたことが適切な治療につながることを学んだ」などの語りであった。

V. 考察

1. 実習で活用できた「看護管理学」教育内容

1) 活用度が高かった教育内容の傾向

臨地実習で活用度が高かった教育内容は、「看護ケアマネジメント」、「チームマネジメント」、「リーダーシップ論」の単位に関する教育内容であった。最もコード数が多かったのは、73コードの「チームマネジメント」に関してであり、次に50コードの「リーダーシップ論」であった。

この結果は、先行研究で調査された看護大学生の「看護管理学」の教育内容の認識、理解についての実態とほぼ一致していた(新実・草間,2017)。看護大学生146名を対象にした調査では、「興味・関心」があると回答した割合が25%を超える教育内容は、「リーダーシップ」、「ストレスマネジメント」

であった。「チームマネジメント」に関する教育内容としては、「チーム医療における看護職の役割」であり16%代であった。このことから、座学時に興味・関心が高かった教育内容は、臨地実習でも意識的に活用できていた

と考えられる。

2) 「リーダーシップ論」におけるリーダーシップに関する実習体験

学生達は主に、実習グループの運営に役立てていた。リーダー役割の場合には、【リーダーシップの機能と役割】を活用し、教育サイドから提示された実習目標の確認や到達のための意思確認をするなど主体的な取り組みが語られた。リーダーシップの定義を、G. R. Terry は、集団の目標にすんで努力するよう、人々の活動に影響を及ぼすことであると述べている。また、三隅は集団力学の観点からリーダー行動に対する測定尺度を開発し、リーダーの行動特性を PM 理論で明らかにしている。P を目標達成機能、M を集団維持機能と呼び、リーダーシップが果たす役割であると述べている。学生達は未熟ではあるがリーダーシップ理論を意識し行動していた可能性があると考ええる。

他に具体的場面では、＜カンファレンス運営にリーダーシップを発揮＞していた。カンファレンス時の環境づくり、意見の引き出しなどを意図的に行った様子が伺えた。臨地実習におけるカンファレンスは、相互に協力しあい学習する態度を身につけ、小集団で思考するなかから個人の思考の高まりも期待できる(佐藤・宇佐美、2006)、臨地実習の学習の広がりや深まりにつながったと考える。

また、学生は＜リーダーの能力や資質を意識した行動＞をとっていた。リーダーの資質の一つとして必要な「高潔さ」を意識していたとの語りから、難しい授業内容を理解した上で、自分の行動に取り入れようとしており学生の可能性を実感した。授業では、G. A. Yuki (山本、2000) が1994年に示した「成功したリーダーによくある特性とスキル」を紹介している。リーダーに必要な能力を念頭に臨地実習での困難な場面に前向きに取り組んだ様子が伺えた。

以上のように、リーダーシップ論の教育内容は学生が臨地実習に主体的に取り組む行動に関与している可能性があると考ええる。また、リーダーシップ論を学生が理解し臨地実習に活用できた理由として、教育方法も関係していると考ええる。リーダーシップ論では、ゲーム型学習を実施しており、グループ毎に同課題に取り組み、成果が高かったグループと低いグループの要因を検討し更に課題に取り組むことで理論の活用を実感できたと考ええる。体験学習の効果について、宗像(1991)は、「態度が変化しはじめるときには、ああ、そうかという‘気づきの体験、が必要であり、行動が変化はじめるためには、ホントにそうだという‘確信体験、が必要である」と述べている。授業での学びが臨地実習で活用できるためには、可能な限り体験中心の学習を導入していくことが効果的であると考ええる。

3) 「リーダーシップ論」におけるメンバーシップに関する実習体験

【メンバーシップの発揮】においては、実習前に役割分担をし、実習中にその役割を確実に果たすことを心がけている語りが多かった。また、リーダーの負担を考えリーダーを支えると共に、必要時には、リーダーに提案をする語りもみられた。

メンバーシップは、集団の目的達成に向けてリーダーを補助する機能である(市川ら、2014)ことを、授業でも強調している。さらに、手島・藤本(2018)は、メンバーシップには、貢献力、ビジョンを具現化する力、批判力、リーダーに提案する行動などが求められると述べており、授業内でチームメンバーのスキルとして重要であることを教授している。学生の語りの内容が教授内容と一致していることから理解し活用されたと考える。

また、リーダーシップ、メンバーシップの教育の導入として、グループとチームの違いを確認した上で、パフォーマンスの高いチームの特徴を示している。落合・海渡(2012)は、パフォーマンスの高いチームのバックボーンとして、共通ビジョンをもつこと、役割と責任をもつこと、協調・調和のメカニズムを作ることなどをあげており、こ

れらのことについても理解し行動した語りがみられたことから、活用度が高かった可能性があると考えられる。

4) 「チームマネジメント」におけるチームマネジメントの本質に関する実習体験

学生は、チーム医療における＜多職種の専門性の発揮＞の重要性、＜対象者を中心とした職種間の連携・協働＞の必要性について、受け持ち患者の看護を通して多くの場面で気づきがみられていた。語りの内容は、チーム医療を推進するための4要素に関する内容が多く含まれていた。チーム医療推進の4要素とは、専門性志向、患者志向、職種構成志向、協働志向であるといわれている(細田、2013)。「チームマネジメント」の単位では、チーム医療の変化や制度をふまえ、チーム医療が円滑に機能するための4要素を教授した上で、チーム医療が円滑に運営できなかった事例を用いて、何が不足していたかをグループワークで理論との照合を図っていることが、理解を深めた可能性があると考ええる。

＜チーム医療における看護師の役割＞の語りは、対象者にとって看護師が身近な存在であることや看護職独自の役割と機能があることを十分に理解した内容であった。授業では、基礎看護学で学んだ看護職の役割、責務をふまえ、チーム医療のキーパーソンの役割を強調している。更に、対象者の「24時間の生活を支える看護の専門性」のテーマで授業中に学生がディスカッションしていることも、チーム医療における看護師独自の役割に対する理解を深めていると考える。

学生は、＜看護チームの看護師の役割＞をよくみており、更に、学生として＜看護チームの一員としての役割＞に関する語りが多くみられた。看護チームにフォーカスし、臨地実習中の学生の役割や、学生の情報提供が対象者の状況を好転させた事例なども伝えたことが印象に残っていたとの学生からの反応もあった。対象者の看護を改善するための学生の発言は、勇気を要するものであるが、「おむつ交換の時期の適切性について提案し改善された」との語りもあった。勇気は育てられる

ものである(澤田、1999)といわれている。学生が勇気をもって提供した情報や提案が反映され対象者にプラスの効果がもたらされた時に、看護のやりがいや喜びなど看護への大きな動機づけとなると考える。学生が成功体験をするには「勇気、ある行動は重要である」と考える。

5) 「看護ケアのマネジメント」に関する実習体験

＜ホスピタリティを配慮した看護ケア＞について語りがあった。授業では、看護サービスの特性としてホスピタリティについて医療以外の優良企業と対比し学生に考えさせている。優良企業のサービスとして、リッツカールトンホテルのサービスの映像を視聴してから検討している。語りには、「相手の方がどんなふうに望んでいるのかを深く考えた」とあったが、まさに、ホスピタリティとは、100人の方の要望に100通りの方法で対応すること(高野、2010)であり、よく理解し患者対応が出来ていることが伺えた。

＜マネジメントプロセスとサイクル＞についても語りがあり、学生には難しい理論であったが、事例展開により理解を深めたと考える。また、看護過程とも連動させたことも効果的であったと考える。

＜看護資源の活用＞や＜看護ケア研究の活用＞は、看護の質に関わる語りである。看護を実践する際に最大の効果を出すために、運用できる資源を最大に活用する視点は重要である。学生は、特に退院支援やリハビリ看護の場面で気づいており、安全性や安楽性に配慮するだけでなく、資源の活用に目を向けたことはマネジメントの視点を持ち実践していたと考える。宇都宮(2009)は、退院調整の第1段階は、退院支援が必要な患者のスクリーニングであり、生活状況や在宅サービス利用状況などの情報アセスメントが重要であると述べている。退院支援段階や退院に向けて在宅で可能な看護方法を考えた時に、個別的で実用的な物品をはじめとする資源の活用に気づくことができたと考える。

＜看護ケア研究の活用＞では、より良い看護の提供に、看護研究の活用を認識したとの語りの内

容であった。Woods, N. F (1988) は、看護における研究とは、「現在のあるいは潜在的な健康問題に対する個人あるいは集団の反応、健康に影響を与える環境、病気を治し健康を増進させる看護介入に関する研究」だと述べている。看護研究では、研究自体を行うことと、研究で明らかになったことを活用することもある。授業では、EBN(Evidence-Based Nursing)を実施することが質の高い看護の提供につながることを強調している。EBNは、「最終的な臨床判断には患者の個別性を十分に考慮する必要があることを明確に示すために、入手可能で最良の科学的根拠を把握した上で、個々の患者に特有の臨床状況と価値観に配慮した医療を行うための一連の行動指針」と定義(福井、2000)されている。学生が座学で学んでいる看護研究科目と看護実践とをつなげ考えられたことは有効であった。

2. 臨地実習で活用が少なかった「看護管理学」の教育内容

臨地実習で活用が少なかった単元は、「看護サービスマネジメント」、「セーフティマネジメント」に関してであった。「看護サービスマネジメント」は、組織的に看護サービスを提供することを中心に授業展開しており、3年次生の領域別実習が一人の受け持ち患者の看護の展開であることから、組織全体をみるレベルには到達していないと考える。統合実習前後の看護課題を比較した研究(三ツ井・中澤・真鍋、2016)では、「病院内の看護管理の理解」「チームワークを発揮した看護の質を維持向上させる実践」があり、看護部長の講和や看護師長の話・シャドウイングから認識を深め、病院全体に目を向けていることがわかる。

また、他のシャドウイング実習から得られた実習の学びに関する研究(今井・井上・近藤、2017)において、「病院組織としてのチーム管理」に関しての学びがあったことが報告されている。このことから、領域「看護の統合と実践」実習前に、組織論を基盤とした「看護サービスマネジメント」を再度確認する必要があると考える。

「セーフティマネジメント」においては、看護管理の視点から、医療安全、感染管理、防災管理、薬品管理などをダイジェスト版で1コマ90分で授業展開しているため、印象に残らない結果となった。看護管理の視点で重要な点を強調していく必要があると考える。

3. 研究の限界と今後の課題

本研究は7名を研究参加者とした質的研究であるため、一般化するには限界がある。また、研究協力者は、自主的に手上げをした学生であることから、積極性や看護管理への関心などインタビュー内容に影響していることも全ての学生に精通する学びとは断定できない。

今後は研究参加者数を拡大し、看護管理学教育の臨地実習で活用できた内容を量的研究で明らかにしていくことが課題である。

VI. 結論

臨地実習で体験されていた「看護管理学」の教育内容は、【チームマネジメントの本質】、【リーダーシップの機能と役割】、【メンバーシップの発揮】、【看護ケアのマネジメント】、【チームマネジメントの本質】であった。【看護サービスマネジメント】や【クオリティマネジメント】に関する語りは少なかった。体験できた教育内容は、看護管理学の教育内容に対して興味・関心が高い「リーダーシップ」「チームマネジメント」に関する語りが多く、授業時の教育内容に対する関心度の高さと一致した。

謝辞

本稿を終えるにあたり、本研究にご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。なお、本研究結果の一部は第12回看護教育学会学術集会で報告した。

利益相反の開示

本研究における利益相反は存在しない。

文献

- 藤本幸三, 手島恵, 住吉蝶子, 渡辺八重子, 小寺栄子, 坂本すが…Carol Keehan(2018). 看護管理学. 44, 東京: 南江堂.
- 細田満和子(2013). 「チーム医療」とは何か. 34-36, 東京: 日本看護協会出版会.
- 市川幾恵, 大谷佳子, 杉野元子, 久光富栄, 昼八えみ, 高橋由美…秦谷美佐枝(2014). 看護メンバーシップ. 24, 東京: 看護の科学社.
- 今井多樹子, 井上誠, 近藤美也子(2017). 既習の知識と技術を統合する多重課題とシャドウイング実習から得られた3年次看護学生の学び. 日本看護科学会誌, 37, 446-455.
- 上泉和子, 小山秀夫, 寛淳夫, 鄭佳紅(2012). 看護管理—看護の統合と実践. 192, 東京: 医学書院.
- 厚生労働省(2008). 看護基礎教育のあり方に関する懇談会報告書. 4-7.
- 三ツ井圭子, 中澤明美, 眞鍋知子(2016). 統合実習前後で学生が捉えた看護課題の比較. 了徳寺大学研究紀要, 10, 249-258.
- 宗像恒次(1991). いま、何故体験学習か. 月間ナーシング, 11, 24.
- 日本看護協会(2015). 看護白書—看護の将来ビジョン. 24, 東京: 日本看護協会出版会.
- 新実絹代(2015). 看護基礎教育における「看護管理学」教育に関する実態調査. 第17回日本看護医療学会学術集会集, 43.
- 新実絹代(2018). 新人看護職員研修における「看護管理」教育に関する調査. 看護教育研究学会誌, 9(2), 55-66.
- 新実絹代, 草間朋子(2017). 看護基礎教育と新人看護職員研修のシームレスな連携に向けて—看護管理学教育に関する提案. 看護教育, 58(10), 832-839.
- 落合和徳, 海渡健(2012). チームステップス医療安全. 50, 東京: メジカルビュー社.
- 小野善生(2013). リーダシップ理論. 77, 東京: 日本実業出版社.
- 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子(2015). 看護教育における授業設計. 119, 東京: 医学書院.
- 澤田富雄(1999). 人を育てる心理学. 153, 東京: 日本経団連出版.
- 高野登(2010). ホスピタリティノート. 22, 東京: かんき出版.
- 福井次矢(2000). Evidence-Based という考え方がなぜ世界を席卷しているのか. 看護, 52(2),
- 宇都宮宏子(2009). 病棟から始める退院支援退院調整. 13-18, 東京: 日本看護協会出版会.
- Woods, N. F., & Catanzaro, M. (1988). *Nursing research: Theory and practice*. Mosby Incorporated.

Abstract

The aims of this study were to clarify the experiences of nursing students who attended a "nursing management" class during clinical practice and to discover the direction of improvement of "nursing management" classes to ensure their utility in nursing practice. A semi-structured interview was conducted on research participants consisting of 7 third-year students of the Nursing Course in A University.

As a result, it was found that the education contents which proved useful in clinical practice were 【Essence of Team Management】 , 【Leadership Functions and Roles】 , 【Demonstration of Membership】 , 【Nursing Care Management】 and 【Essence of Team Management】 . There was little mentioned about 【Nursing Service Management】 and 【Quality Management】 . The contents of education which proved useful corresponded to the level of interest in the contents learned during classroom studies, and it was observed that the education contents which were of keen interest to the student during class were consciously utilized in clinical practice. In addition, it has been observed that experience-oriented learning method is effective as it raises student awareness leading to their taking action.